

インシュアテックイノベーション 連載第4弾

ポスト資本主義・AI時代に 残る仕事③



Di吉村社長、畔柳氏、IRRC副社長建部氏、

アイリックコーポレーション(IRRC)フェロー
保険・ヘルスケアDX担当 畔柳主税

生・損保の強み融合した初ソリューション誕生

生命保険と損害保険、それぞれの強みを融合し、DXとAIを活用した業界初のソリューションが誕生。会社を越えた絆とビジョンの共有が、共創の成功を導いた裏側をお届けする。

■絆の始まり

「想いを共有する仲間との出会い」

2008年、筆者が光保険サービスに在籍し、システム再構築を進めていたところ、保険代理店向けのIT営業の三井氏と情報交換していた。この情報交換は私が会社を二社移っても続き、現在のドコモ・インシ

ランス(以下、Di)であるエヌ・ティ・ティ・イフ(以下、NTTI)の吉村忠義部長との運命的な出会いへとつながった。16年、NTTIが生命保険事業から撤退すると聞き、損保分野での強みを生かした提携の可能性を模索することとなった。

初対面の吉村氏は、誠実に実直な人柄が印象的であった。ホワイトボードに描いた「IRRC(アイリックコーポレーション)の企業内代理店に、NTTIの自動

ビジョン共有した吉村氏(現Di社長)との絆

を形づくる第一歩であった。

■絆を支えた試練の日々

「初期の壁を越えて、提携を進める中で、幾多の課題が立ち上がった

た。特に、大手保険会社とのAPI連携は容易ではなく、多くの提案が「費用対効果が見合わない」と退けられる状況であった。しかし、ここで諦めることなく、筆者と吉村氏は互いにアイデアを出し合い、RPA技術を活用した既存ツールの改良に取り組んだ。

「DXとインシテックのリード」
提携はさらに進化を遂げ、AI-OCRを活用した自動車保険の見積もりソリューションの開発に着手した。このプロジェクトにおいて、保険証券の読み取りスピードと精度、そして高機能化による投資コストの課題が浮上した。特に、保険証券の画像撮影後10秒以内で結果を表示する必要があり、この技術的な壁を越えることが求められた。

変換を組み込んだ柔軟なソリューションを開発することで、業界をリードする存在となった。これらの成果は、共創の精神と筆者と吉村氏の絆があったからこそ可能であった。24年、火災保険の見積もりにも拡大して、多くの代理店から引き合いをいただいている。

「未来へつなぐ絆」
IRRCは18年に上場を果たし、筆者は保険・不動産・ヘルスケアDX担当のフェローとなった。24年、他社とのアライアンスの良き理解者であり、私の上司である建部は副社長に就任した。一方、Diも23年にNTTIドコモの保険販売を担う企業へと成長し、吉村氏はついに社長に就任した。この報告を受けたとき、筆者は心から誇らしい気持ちとともに、今後の両社の提携と発展に深い感慨を覚えた。

Xやインシテックは、ソリューションも大事だが、ビジョンを共有し、互いを応援するマイルドが必須なのだ。生損保の共創も、会社・人の成長も伴って、新たなステージへ進みたい。保険から金融へ、疾病リスクの保障から予防医学へと業界を超えたソリューションについて、共創の「和」が広がる予感がする。

【畔柳主税(あぜやなぎ・ちから)氏のプロフィール】
静岡県富士市生まれ。東工大卒。石油会社のIT部門から2008年より保険業界向けのITソリューション・DXの企画・営業に携わる。持ち味は企業コラボ。

■未来を切り開く共創の力

「なすでは実現できなかつたものである。互いを支え合う姿勢と信頼が、初期の試練を乗り越える原動力となった。」

吉村氏との協力により、非定型AI-OCR技術を採用し、迅速かつ高精度な保険証券の読み取りを実現することができた。さらに、NTTIの持つノウハウを生かし、API連携やコード

的な存在になる。さらにDiの中でも社長として活躍する姿を見ることがある。彼のリーダーシップと誠実さを信じ、筆者は陰ながら応援してきた。

静岡県富士市生まれ。東工大卒。石油会社のIT部門から2008年より保険業界向けのITソリューション・DXの企画・営業に携わる。持ち味は企業コラボ。